

横浜市 歴史博物館 NEWS 5 1997・3

- ◆歴史博物館野外施設全面オープン
- ◆企画展「海からの江戸時代ー神奈川湊と海の道ー」
- ◆いんたびゅー／木村 礎「天下国家をではなく、民衆の歴史を」
- ◆収集・収蔵資料の紹介〔7〕朝光寺原古墳群出土遺物
- ◆＜常設展示室探検＞解説シート
- ◆歩いて、学んで、地域の歴史 体験学習「コウゾから和紙へ」
- ◆ミュージアムショップオリジナルグッズー収蔵資料とミュージアムグッズ
- ◆＜知ってますか？＞エントランスホールの死角

歴史博物館野外施設全面オープン



博物館に隣接する大塚・歳勝土遺跡公園は、昨年三月に一部（四・六ヘクタール）オープンして以来、弥生時代のムラを体感できる公園として親しまれてきました。

三月二十九日、整備中であった野外施設の工事が終了し、全面オープンいたしました。遺跡公園の中には、弥生時代の集落と墓地の遺跡を復元・再現したものに加え、今回、江戸時代の民家「旧長沢家」住宅が復原され愛称も「都筑民家園」と決まりました。博物館と一緒に、ぜひご利用ください。

よみがえった「旧長沢家」住宅

横浜市歴史博物館の野外施設「大塚・歳勝土遺跡公園」内に復元を進めてきた「旧長沢家」が、平成七年六月から一年半という時間をかけて平成八年十二月末に無事竣工しました。工事期間がこれだけ長期に渡ったのは、難しく根気のいる作業を要したからです。

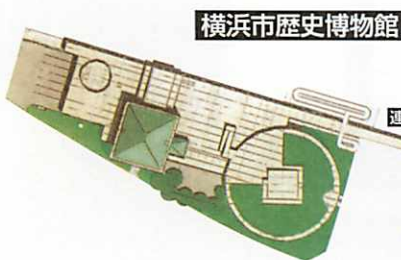
「旧長沢家」は建築様式から推測して江戸時代中期に建てられたとされ、すでに二百年以上が経過しています。復元に当たって部材を調査すると、虫に食われたり、継ぎ目が損傷し、そのままでは建物を支えきれなくなったものがありました。さらに解



大塚・歳勝土遺跡公園 平面図



横浜市歴史博物館



体から復原工事が始まるまで二十年あまりの歳月を要したため、保管期間に菌による腐朽や材のねじれによる損傷が生じた部材もありました。「旧長沢家」は約千点の部材で構成されていますが、このような虫や菌による損傷や物理的な劣化によって、部材の修繕が必要となりました。

部材の修繕は、全体が痛んでしまったものは、松なら松、杉なら杉というように当時と同じ材を使って新たに作り直しました。梁など曲がった材の場合は同じような曲がり具合の材木を探す必要もありました。少

屋根裏の様子

土間の屋根裏を見た様子です。当時は材の曲がり具合にあわせて梁や柱を組み立てたので、かなり複雑な小屋組となっています。下から右にある梁は古い材のように見えますが、実は新たに作りなおした材です。これは材の割れた部分に古色が残っていることからわかります。天井がないため、茅葺き屋根の下地の様子もよくわかります。



竣工間近な「旧長沢家」

「旧長沢家」は江戸時代中頃に建てられたと想定されています。当家は牛久保村（現横浜市都筑区牛久保町）の名主や組頭を務めていました。主屋の形式は「ヒロマ型」で、主屋とウマヤが平行に建てられた武蔵南部特有の建物です。



しても使えるような場合は痛んだ部分だけを「根継ぎ」という方法を用いて取り替えました。一部だけが痛んでいるような場合にはそこだけを取り替える「埋木」という方法を用いました。

完成してから違和感があつてはいけませんから、かつての仕上げと同じになるようにチョウナという道具で表面を削ったり、古色をかけて継いだ材の色を合わせなどの工夫を施しました。

少し見ただけでは古い材なのか復原した材なのか判断できないほどに仕上がっています。これらの修繕には四人の大王さんが半年以上も時間をかけてあたりました。

こうして修理が終わった部材を組み上げたのは平成八年四月のことでした。建物の形が見えてきた五月から八月にかけての時期には屋根の茅を葺いたり、土壁を塗る作業が行われました。蒸し暑い時期でしたが、職人さんの仕事はとめていいないでした（これらの作業の様子は『横浜市歴史博物館ニュースNo.4』に掲載されています）。

夏も終わりに近づいた頃から、内装工事にかかりました。土間のタタキは二ガリや石灰を混ぜた粘土をたたいて仕上げます。へつつい（カマド）は石で骨格を作ったあと、やはり二ガリや石灰を混ぜた粘土で隙間を埋めながら何層にも塗って仕上げます。どちらも根気よく何日もかけて仕上げ

根継ぎの柱

土間から洗い場を見た様子です。左側の板の間がヒロマです。このヒロマが表側から裏側まで突き抜けている民家を「ヒロマ型」と呼んでいます。土間境の中ほどの柱は鉤型に部材を継いでいるのが分かります。



ていきました。

「旧長沢家」は米園者のみなさまに江戸時代中頃の港北ニュータウン地域の民家を体感していただける貴重な空間で、家の構造や仕組みを実際に家の中に入って見ることができ、へつついや囲炉裏は実際に使えるように作られています。

そしてもう一つの体感もあります。復原工事に当たった大工・左官・屋根屋など、職人の人々がどのような技術で江戸時代の民家の姿を再生したのかを知ることができ、実際に復原された柱や梁を見ることができ、どのような修理が行われたのかを確認できます。また土壁やタタキにふれてその構造を体感することもできるので

「旧長沢家」はそれ自身がいろいろな体感を与えてくれる、まさにワンダーランドです。お立ち寄り下さい。

海からの

神奈川湊と海の道

江戸時代

横浜が開港するまで、神奈川は江戸内湾有数の漁村であると同時に、諸国の廻船が出入りし、諸品の商いが盛んに行われていた湊でもありました。これは江戸幕府による全国的な流通システムができあがり、その後、全国各地で庶民を中心とする消費経済が本格化したからです。東海道のような「陸上の道」だけではなく、庶民を核とする大規模かつ広範な廻船による「海の道」も必要になってきたのです。愛知県知多半島を拠点とした「尾州廻船」がたびたび神奈川湊に入港し、青木町（現・神奈川区青木町付近）の廻船問屋と取引を行っていたことが、近年の研究で明らかになってきました。

本展示では、神奈川湊と最も関係の深い「尾州廻船」に焦点を当て、青木町御船神事など廻船をめぐる信仰にふれながら、上方から江戸にいたる太平洋海運の一端を考えます。また、五大力船や押送船の活動から江戸内湾の流通状況や、さらに浦賀番所を介して幕府による流通統制なども

●御船神事の祭礼風景



●五大力船勢揃いの絵馬
(市原市・飯香八幡宮蔵)

考えてみます。とくに神奈川湊においては、青木町の廻船問屋や船宿に注目し、青木町に隣接する芝生村（現・西区浅間町付近）も紹介しながら、横浜地域に生きた庶民の生活を再考したいと思っています。

なお、当館のエントランス・ホールにおいて、百石積弁財船の実物大の断面部分模型を展示します。帆柱を設置し、帆桁を組んで帆を揚げる予定です。

●尾州廻船住吉丸の船額



展示構成（予定）

I 江戸内湾における流通とその統制

(1) 内湾の流通

(2) 浦賀番所

II 神奈川湊の形成と台頭

(1) 廻船問屋と船宿

(2) 芝生村と神奈川道

III 全国流通の展開と神奈川湊

(1) 尾州廻船

(2) 尾州廻船住吉丸の活動

(3) 神奈川湊と上方・江戸の航路

IV 廻船の世界

(1) 弁財船

(2) 廻船の祭りと信仰

■主な展示物（予定）

・弁財船・五大力船・押送船の十分の一模型

・御船神事の船模型

・五大力船・弁財船・海難に関する「船絵馬」・「護摩札」

・「尾州廻船主の関係資料」をはじめとする弁財船に関する資料

・航路図や絵画・古文書などの文献資料

会期

1997(平成9)年
4月26日(土)
～6月15日(日)

木村 礎 (きむら・もと)

天下国家をではなく、民衆の歴史を

◎村を実際に歩くことによって、独自の村落史学を築いていますが、どういう考え方に基いているのですか。

私の村歩きの方は、初めのころと今では違います。歴史研究を本格的に始めたのは一九四九年です。この時期はマルキシズム的社会構成史学が全盛で、私はその影響を受けました。社会構成史学では、時代ごとに律令社会、封建社会などと、その社会的性格を決めて研究していき、江戸時代の場合は、膨大な史料の中から、近世的本百姓の成立、農民層の分解などの決まった概念に合うものだけを、見ていけばいいのです。ところが文書を調べる過程で村の人々と話していると、その人たちの頭にある村の歴史に、農民層の分解などといった概念は全くないことが分かってくる。うちが本家で、本家の墓はこれ、この用水はどうやって引いた、といった話が大事なのです。こうした経験を積むうち、学会で議論されていることと、村から村を歩いて聞いた話の違いが大きいと分かり、矛盾を感じるようになりました。それで腹をくくりに、学会の概念的な歴史と決別したのです。自分が感じて考えたことをもとに、論文を書



くようになったのは一九七〇年代からです。

景観研究で村落史を体系化

◎先日(二月二日)の横浜歴史博物館特別講演会で、長塚節の小説『土』の内容に基づいて、二〇世紀初頭の村の生活について話されましたが、あのような観点からの村落研究には、どのような意義があると考えますか。

これまでの日本の歴史学は、戦前の天皇制中心の歴史も、戦後の社会構成史も、分かりやすいくいうと「天下国家史学」で、民

衆は出てきても、天下国家的立場から見た民衆です。これでは駄目です。『土』に登場する貧しい小作人の勘次も、その妻のお品も出てこない。そこで、ただ『土』を取り上げるだけでなく、勘次らに象徴される人々の研究を、体系化する必要があるのです。私はかつて、村落や村民を機軸にして、歴史を体系化できないか、と考えた挙げ句、一つのやり方として村落景観論を唱えました。文書だけでなく、絵図や伝承などのいろいろな材料を駆使すると、村の姿が復元できます。その地域が一九世紀半ばにはどうだった、昔の道はどう引かれていたか、村の姿がどう変わった、ということが分かるのです。私が唱え始めたころは、村落景観の研究が歴史研究として有効とは、誰も考えませんでした。ここ十年ぐらいで変わってきました。最近は村落生活史の研究を通して、歴史を体系的にとらえ直す方法を探っています。

台所の変化でつらさ分かる

◎長年の村落調査を通じて、戦後の村の変化について、何か特徴的なことはありますか。

一番最初に感じたのは土間、台所の変化です。高度成長期よりも前、戦争が終わって少し落ち着いた昭和三〇年代前半に、随所で起こりました。その状況を見て、昔の女性労働にとつて、土間での作業がとてつらかったのだな、と分かりました。それと、道がよくなりました。戦争直後は大変でした。県道クラスの道を歩くと、暗れている時は、車がそばを通り黄粉になるのです。汗かいている体が、土ぼこりをかぶるわけですから。そういうことは最近、なく

なりました。

実物と現地感覚が面白い

◎この博物館の展示についてどう思いますか。

私は「村歩き」で現地で現物を見る作業を大切にしてきましたから、はつきりいつて、博物館で見るものは面白くない、と思ってきました。ところが広島県立歴史博物館にある草戸千軒の復元大模型を見て、感心しました。これは芦田川の洪水で埋もれていた、中世から近世初頭にかけての町の遺跡で、最初、発掘現場を眺めた時「面白そうだ」と感じて、その次行った時に博物館の展示で見たら、民家や船着き場などが臨場感をもって復元され、現地感覚がよく出ていました。私にとって面白いのはやはり、実物と現地感覚です。この博物館の場合、隣に大家・蔵勝土遺跡という現地がありますから、私の考え方からいえば、優れた博物館です。

▽きむら・もとプロフィール

●一九二四年、東京に生まれる。安田商業学校を卒業後、代用教員などしながら明治大学二部専門部文科地理歴史科で学び、一九四五年、卒業。一九五〇年、東京文理大学国史学科卒業。一九四九年、明治大学に勤務、文学部教授、文学部長、学長などを務めて、一九九四年、退職。研究の中心は地方史、村落史。各地の村落を調査した体験をもとに、独自の景観史学の確立を試みるなど、村落から見た歴史にこだわる。

●著書『日本村落史』(弘文堂)『村の語る日本の歴史』(全三冊、そしえて)『地方史を生きた』『少女たちの戦争』(日本経済評論社)『木村礎著作集』(全十一巻、名著出版)

朝光寺原古墳群出土遺物

朝光寺原古墳群は、横浜市の西北部、青葉区市ケ尾町に位置し、谷本川左岸に張り出した台地上の三基の円墳から構成されます。発掘調査は一九六七年（昭和四二）に実施されました。

一号墳は径三七mで、墳丘の高さは二・五m、周りには幅一二mの溝がめぐります。墳頂には割竹形木棺が東西方向に直接埋葬されており、副葬品として、短甲一点、眉庇付冑一点、鉄剣八点、鉄鉾一点、鉄刀三点、鉄鏃二点（東のものも一点とする）という多量の武器・武具と勾玉一点、白玉一五三点が発見されています。

短甲は三角板鉄留短甲といわれるもので、一辺一一・一八・五cmの三角形の鉄板を鉄で固定し、堅上や押付板縁部を革紐で綴じて形を作り上げています。若干の破損はありますが、ほぼ完全な形で遺っています。高さは三七・一cm、押付板の幅は四七・一cmを測ります。



●鉄鏃（朝光寺原1号墳）

●三角板鉄留短甲と眉庇付冑（朝光寺原1号墳）



眉庇付冑は、頂部の装飾と鏃が欠けていますが、全体の姿を留めています。鉾はほぼ円形で、眉庇には透彫が施されています。鉾の径は二〇・一cm、高さは一五・六cmです。



鉄剣（朝光寺原1号墳）

七本の鉄剣は、刃の部分や茎の部分に外側を被っていた木製の品の痕跡がみられます。また、鉄鏃には多様な形態のものがあり、尖根が束になったものもあります。

これらの中で注目されるのは短甲と眉庇付冑で、神奈川県下では唯一の発見例です。このような遺物から、一号墳は五世紀後半に築かれたものとみられます。

二号墳は、径約二三m、高さ約三mで、

幅約六・五mの周溝をもちます。主体部は墳頂に割竹形木棺を直葬しており、副葬品として、長さ八〇cm近い鉄刀一点、各種の鉄鏃一六点の他、銜・鏡板・引手からなる轡が二点、二個体の吊り金具などの馬具が発見されました。二号墳は六世紀前半に造営されたとみられます。



●馬具・轡（朝光寺原2号墳）

三号墳は、径約二〇m、高さ約二・五mで、幅約三・五mの溝がめぐります。主体部は不明ですが、副葬品には鉄刀一点、鉄鏃三点の他、馬具として完形の剣菱形鉄地金銅張杏葉一点、欠損は著しいですが三個体の轡金具が発見されています。

このように、朝光寺原古墳群出土遺物は多量の武器・武具である点の特徴です。おそらく、葬られた人物たちは、何らかの形でヤマト王権への軍事的奉仕を行い、その顕彰としてこれらを手にしたのでしょう。

遺物は、一九八八年（昭和六三）に横浜指定文化財に指定され、現在、博物館で保管しています。その多くは、本来の形を復元した資料と合わせて、常設展示室で見ることが出来ます。



●馬具・剣菱形杏葉（朝光寺原3号墳）

常設展示室探検

解説シート

博物館の常設展示は、実物・複製資料をはじめ、各種の復元模型と装置模型、地図・写真や復元イラストのパネル、解説映像などを組み合わせ、横浜の歴史を身近に知ることができるようになっています。文字解説はできる限り少なくし、各項目の解説が設けられている程度です。



この資料にはもう少し詳しい解説がほしいな、この模型はどのような史料に基づいて作られているのかな、模型のこの部分は何を示しているのかな、と思われる方がいらっしゃるのではないでしょうか。そのようなご希望に応えるとともに、展示資料をより深く理解していただくために置かれているのが解説シートです。各展示室のポイントになる資料の前に置かれており、自由にお取りいただけます。現在は9種類の解説シートが用意されていますが、今後は少しずつ増やしていく計画です。

体験学習

コウゾから和紙へ

ピッチャン ピッチャンと心地よい音が部屋の中に聞こえます。半紙大の和紙を漉くスキケタが生み出すささなみの音です。それはとてもリズムカルな音で、職人という技術にたけた腕のみが醸し出すことができる音でもあります。薄い一枚の和紙を漉く技術には古い歴史が流れています。

横浜・市歴史博物館の体験学習は、地域の歴史を知り、それを少しでも体感・体得し



ていたために準備された事業です。博物館の西南約四キロの地点に都筑区川和町が位置しています。江戸後期の川和村を知ることができる『新編武蔵風土記稿』をめぐると「そこに農耕の餘業には紙を漉き、蠶をやしなうて生産を資く」と、和紙漉きのことが記されています。今では和紙漉きは伝承されてはいませんが、かつては冬場の副業として、村に沿うように流れる鶴見川の清流を利用し、原料となるコウゾやミツマタの樹皮を晒していたことが想像されます。

このような歴史的な背景を身近に持つ博物館では、和紙漉きを体験学習の一つに加えるために、どのような方法が一番良いのか検討を繰り返しました。その結果、江戸時代、江戸市中に大半に出回っていた細川紙の伝統技術を受け継ぐ方々にご指導をいただくことになりました。細川紙の産地は埼玉県比企郡小川町です。そこには埼玉伝統工芸会館が建ち、その活動の一環として埼玉小川和紙工業協同組合のもとで小川和紙技術継承育成事業が展開されています。和紙漉きの工程は次のようです。

- ① コウゾ収穫：五年目の十月に刈り取る
- ② 蒸す：蒸して樹皮をはく
- ③ 晒し：樹皮を水に晒し柔らかくする
- ④ 白皮加工：樹皮の黒皮を削り取る 白皮をソソリという
- ⑤ 煮る：ソバガラ（焼灰）を混ぜ煮る
- ⑥ 洗う：川であくや灰を洗い流す
- ⑦ だがい：ソソリを槌や棒でたたき繊維状にする
- ⑧ トロロアオイ：一年草、根をたたき粘

液をとる

- ⑨ フネ：水を張った紙漉きフネに⑦と⑧を入れ、竹でよくかき混ぜる
- ⑩ 漉く：スキケタで漉く

- ⑪ 干す：張り板に張り干す

今回の体験学習では、まず小川町における和紙漉きのビデオを放映し、紙漉きの全工程を頭に入れてもらいました。続いて参加者の判断で半紙漉きと葉書漉きの二組に別れ、⑦から⑩までの工程を実体験しました。スキケタをフネに入れるという単純な動作もなかなかうまくできません。さらに半紙用のスキケタに浮くコウゾの重いこと、乾燥し、できあがった和紙を見るにつけ、技術能力の差を体感しました。指導員の皆様ありがとうございました。

メモ：「紙漉き」は平成九年一月二五日（土）と二六日（日）に開催され、一日三回計六回の教室でした。各回先着三〇名のみなさんが参加しました。また小川町からトロロアオイの種が参加者に送られました。トロロアオイは、大正期に中田村（泉区）で盛んに栽培されたようです。博物館ではいろいろな体験学習を企画しております。



収蔵資料とミュージアムグッズ

博物館では、常設展示室に展示されている資料以外にも、多くの資料を収蔵しています。それらは、企画展などでご覧になることができます。しかし、その企画展も、テーマごとに分けられているので、何年かに一度お見せできるかどうか、という資料も少なくありません。



そのような、なかなかお見せできない資料をもっと身近に感じていただくように、ミュージアムショップ オリジナルグッズ

Museum Shop Original Goods ミュージアムショップ オリジナルグッズ

ジアムショップでは、収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズを開発しています。



「贈り物と一緒に、ちょっと一言」と思ったときに便利な一筆箋では、横浜浮世絵と御開港横浜之全図を、また役者絵と東海道名所図会をテレホンカードにプリントしています。そして現在、横浜浮世絵をデザインした、マグカップも製作中です。

ミュージアムグッズで、展示品以外の収蔵資料もぜひ身近に感じてください。

歩いて、学んで、地域の歴史

INFORMATION

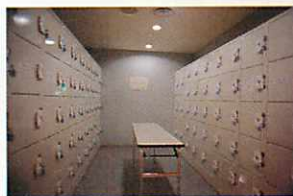
今後の企画展のお知らせ

◆海からの江戸時代—神奈川湊と海之道
4月26日～6月15日

◆コレクションに見る写真の歴史Ⅱ（仮題）
7月16日～8月24日
米国在住のサーマン・F・ネイラー氏が収集した世界有数のカメラ・写真などのコレクションを公開します。

??????知ってますか??????

エントランスホールの死角



ギリシャ神殿を思わせるような大理石の柱で囲まれたエントランスホール。この奥にちょっとした空間が用意されています。ベンチが置かれ、一息つける休憩スペースです。この左、ちょっとした死角ですが、奥まったところに無料のコイン・ロッカーが設置されています。

展示室では、時々、大きな荷物をもって、重いコートを抱えて展示をご覧になっている方を見かけます。このような方には、ぜひ利用していただきたいものです。ロッカ



ー使用のための100円硬貨は、使用後に返却されますので、お忘れにならないように。但し、1週間を過ぎたお忘れものは処分されますので、お忘れなく。

また、ロッカー・ルーム横のイスラムブルーのタイルの壁には、飲み物の自動販売機が置かれています。コーラ、コーヒー、オレンジジュース、ココアなど、お好みの物をベンチに腰掛けてお召し上がりください。いうまでもなく、歩きながら飲んだり、展示室に持ち込むことはご法度です。

- 10月5日 特別展「縄文文化誕生—都筑区花見山遺跡が解き明かす最古の土器文化の謎—」開催（11月24日まで、観覧者12,996人）
- 10月5日 10月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「中国青銅器の世界」
- 10月12・13日 体験学習「土偶づくり」
- 10月13日 特別展関連研究講座 坂本彰氏「花見山遺跡を掘る」
- 10月18日 古文書解説教室（12月20日まで毎週金曜日連続10回）
- 10月20日 特別展関連講演会 小林達雄氏「縄文文化誕生の謎に迫る」
- 10月30日 <ふるさと横浜探検3>江戸時代の民家を訪ねて
- 11月2日 11月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「古代のかやき—藤ノ木古墳—」
- 11月3日 特別展関連講演会 加藤晋平氏「東アジアの中の縄文文化のはじまり」
- 11月9・10日 体験学習「風車づくり」
- 11月27日 <ふるさと横浜探検4>江戸時代の保土ヶ谷宿探訪
- 12月1日 12月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「開戦パルハーパー」
- 12月14・15日 体験学習「凧づくり」
- 12月25～27日 くん蒸のため休館
- 1月5日 1月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「大英博物館中央アジアの美」
- 1月25・26日 体験学習「紙すき」
- 1月28日 特別展「オリエンタリスト江上波夫コレクション—ユーラシア諸文明の交感—」開催（2月23日まで、観覧者4,860人）
- 2月1日 2月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「美の回廊をゆく—黄金仏遊行—タイ・バンコク・スコタイ」
- 2月2日 特別講演会 木村 礎氏「長塚節『土』の世界—20世紀初頭の村落生活—」
- 2月22・23日 体験学習「まゆ人形づくり」
- 3月1日 3月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「再現法隆寺金堂壁画—いまよみがえる白鳳の美—」
- 3月2日 歴史講座「土器作り教室」（30日まで毎週日曜日連続4回）
- 3月8日 企画展「江戸時代の横浜の姿—絵図・地誌などにみる—」開催（4月6日まで）
- 3月26日 <ふるさと横浜探検5>戦国の城・国史跡「八王子城跡」を訪ねて
- 3月29日 都筑民家園一般公開

横浜市歴史博物館 ● 日誌 ●

（96年10月1日～97年3月31日）

横浜市歴史博物館及び大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで（ただし、入館は午後4時30分まで）
大塚遺跡、旧長沢家住宅を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳（療育手帳）」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
（「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分）



駐車場あり（2時間400円）

編集後記

暖かくなると、「大塚・歳勝土遺跡公園」では、芝生にお弁当を広げる家族連れや走りまわると子どもたちの姿が見られるようになります。復原された「都筑民家園」が公開され、歴史博物館野外施設全体がオープンいたしました。ぜひご利用ください。

